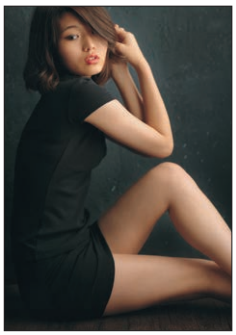
FUJIFILM
Value from Innovation

2014 富士フイルム 営業写真コンテスト作品集



◆2014富士フイルム営業写真コンテストの入賞作品集をお届けします。51回目を迎えた今回は応募総数11,113点（前年比99％）、応募者数3,381人（前年比98％）といずれも微減でしたが、このコンテストに対する皆様方のますますの意識の高まりを感じることができました。

総体的に技術レベルが向上、ますます進化を

◆応募作品は総体的に技術レベルが上がっています。従来の営業写真の伝統的な手法に限らず、新たな手法や構図による作品が多く見受けられました。お客様のニーズにあわせるとともに、被写体の個性をも活かす写真館でしか撮れない独創的な写真がでてきたことは頼もしい限りです。デジタルカメラの高性能化と高感度を活かした手持ち撮影や、蛍光灯撮影での雰囲気を出したものなども多く見受けられました。また今年の傾向として金賞の堀さんをはじめ女性写真家が増えました。おおいに歓迎されることです。なお、堀さんは33年ぶり、4人目の女性金賞受賞者となりました。

◆さて、審査時に気になった点を紹介します。

◎婚礼では、トラディショナルな2人の写真が少なく、アルバムのワンカットのようなスナップ的な写真が増え“この1カット”で表現できる写真が少なくなりました。改めて基本的なフォーマルな表現について取り組みをお願いします。

◎昨年にも増しマタニティー写真がかなり増えました。しかしながら綺麗なマタニティー写真が少なく感じます。単におなかだけにフォーカスした表現でなく、全体を通し、いかに綺麗に表現するかが望まれます。

◎デジタルカメラの普及、スナップ写真の増加とともに「横位置」での写真が多くなりました。カメラセンサーの縦横比、最終プリントの縦横比、適切なフレーミング、トリミングなどさまざまな条件を考慮し、撮影意図を明確にして、横位置でどう構成するかを考えて作品作りしてほしいです。

◎トリミングにもっと気を使ってほしいです。お客様に渡す商品の最終プリントとしてどう表現するかをイメージしていただきたいです。

◎ライティングで基本的な照明比がしっかりしていないものが散見されました。メインライトの大切さを改めて理解した上で、新しい表現にチャレンジしていただきたいです。

◎明るいレンズで開放絞り近くでの撮影が多いためか、ピント不良の写真が散見されました。ピント機能について改めて確認しカメラの合焦機能に頼らず自ら確認するよう見逃さないでほしいです。

◎写真内容や衣装とバックのバランスが合わない写真が散見されました。白バックや濃いバックをどのように使うか、もう少し考えてほしいです。特に「何故、黒バック？」と思わせる作品を多く感じました。

◎ロケーションの背景で疑問符がつくものが散見されました。背景にもう少し気を配り被写体とのマッチングを考えてほしいです。

カメラ・レンズをはじめ、営業写真の基本についてさらに知識を高め新しい表現に挑戦していただければ、さらに素晴らしい作品を生み出すことができると思います。

——次回もまた意欲あふれる作品を期待します。

作品集への掲載順は賞の順、写真館様所在地の北から順、同一都道府県内は郵便番号順で掲載しています。一部、レイアウトの都合上、順番の入れ替わりがあります。

CONTENTS

2014富士フイルム営業写真コンテスト作品集

［NO.182 2014］

2014富士フイルム営業写真コンテスト入賞発表

●金賞……1
●銀賞……2
●銅賞……7
●フロンティア賞……17
●優秀写真アルバム賞……18
●優秀賞……19
●テーマ賞……22
（婚礼写真）
●テーマ賞……26
（入園卒園・入学卒業写真）
●テーマ賞……30
（成人式・七五三写真）
●テーマ賞……34
（ポートレート写真）
●テーマ賞……38
（子供ポートレート写真）
●テーマ賞……42
（家族写真）
■金賞作家を訪ねて……46
■INFORMATION
富士フイルム営業写真コンテスト
表彰式開催……48

金賞

「祝！社会人」　堀 由貴子　ホリスタジオ（東京）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　F7.1　1/100　ストロボ

■選評

非常にお洒落な写真で、作者の確かな目と高い感性が感じられる秀逸の作品です。表情とポーズから自然な雰囲気を感じさせますが、それだけではなく、家族それぞれの個性と関係性を表現していることがこの作品の最も優れたところだといえます。お父さんの手の置き方、息子さんの体の傾き、そして等間隔ではない4人の絶妙な空間バランスなどは、時間をかけて故意に作ったものではなく、このご家族を感じた作者のインスピレーションによるものだと思います。無彩色で色もシンプル、作り方もシンプル、その結果、それぞれの個性が際立ってワンちゃんも含めた5人の家族の関係性が上手に表現された素晴らしい作品です。さらに、グレーの縁も作品としてのお洒落感を引き立たせており、縁付き写真の成功例と言えます。

■喜びの声

歴史ある富士フイルムの営業写真コンテストの頂点に選んでいただき光栄に思います。金賞を受賞する名誉と幸せを感じています。
金澤様ご一家は、長身でスタイル抜群、とても格好いいご家族なのです。
いつも、笑いの絶えない和やかな雰囲気の撮影になります。
今回の撮影はご長男の成人記念以来、3年振りのご来店でした。
お父様とお揃いのブレザーを着こなして、家族からの祝福にはにかむ姿が印象的でした。気取りのない、おひとりおひとりの素直な一瞬の表情が、この写真の一番のチャームポイントと思います。
田無に開業して30年、多くの人に支えられて今日があります。
最大に受賞を喜んでいるであろう亡き母も遠くで応援しているはずです。
大きな視点でものごとを捉えて、繊細に撮影する大切さを教えてくださる辻文作先生。励まし教え合える写真の仲間たち。
デジタル音痴を助けてくださるプロテクイースト様、いつもありがとうございます。
私は、素直に自然で、格調高くいつまでも見ていたい、
心に残るポートレートを大切にしていきたいと考えます。
これからも妹と二人ゆっくりと、丁寧に心を込めて小さなスタジオを営業していきます。
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ　プロテク・イースト）

銀賞

「中３の夏」　石毛良二　ハートフルスタジオ　イシゲ写真（千葉）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-105㎜　F9　1/100　ストロボ

■選評

これまでのユニフォーム写真は綺麗なものばかりですが、この写真では日焼けした顔と泥だらけのユニフォームで、グラウンドからそのまま来たような活き活き感と自然さを感じさせます。こうした写真はあまり見たことがなく、まさに野球に打ち込む姿をそのまま表現した優れた作品です。構成もうまく、誰かが目立ちすぎることなく非常に良いバランスで並べられています。また、グローブやバットなど、本当はもっと多かったはずですが、そうした小道具を極力少なくし、さらにその配置も最適で、人物に目が行くように演出されています。全員の爽やかな自然な笑顔がこの写真の魅力を助長しています。

■喜びの声

まさかまさかの上位入賞に驚きと感動で一杯です。２００５年の金賞以来「もう一度帝国ホテルへ」の願いが叶いました。
今回の作品「中３の夏」は、ラストゲーム直後のその足でご来店いただきました。汗と思い出の染み込んだユニホームと６人のさわやかな笑顔に助けられた１枚だと思います。一緒にご同伴いただいたお母様方と和やかな雰囲気の中、楽しく撮影することができました。この中のお１人は、お母さんのおなかの中にいた時から毎年家族写真でご来店いただいているお客様です。
いつも妻と二人で仕事をしておりますが、今年がちょうど結婚３０周年を迎え大変良い記念となりました。
これからも少しでもお客様にご満足していただけるよう精一杯頑張っていきたいと思います。
最後になりましたが、修業時代よりお世話になっております亀戸の福地憲一先生、そして千葉県写真家協会の皆様、諸先輩方、私のわがままをきいて素晴らしいプリントを仕上げてくださるプロテクイーストの皆様に感謝申し上げます。
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ　プロテク・イースト）

銀賞

「橋詰家・七五三記念日」　滝澤一浩　タキザワ写真館（長野）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　F5.6　1/80　ストロボ

■選評

ライティング、画面構成、立体感の表現など、どれをとっても高い技術を感じさせる作品です。3歳のお祝いで、家族の幸せ感を表現していますが、一番はお父さんの喜びが全面に出ていることがポイントで、この写真においては「主役はお父さん」といっても過言ではないほど「よくここまで育ってくれたね」という喜びが描写されています。構成的には、直線的なイメージのなかでお父さんだけを動かして変化をつけていますが、これはこれまでにない新しさだといえます。光の扱いも巧みで、とくにバックグランドライトの使い方や顔の立体感の表現など、随所にベテランの域の高い技術力が感じられます。

■喜びの声

このたびは栄誉ある銀賞をいただき、大変うれしく、厚く御礼申し上げます。
これもひとえにお客様のご家族、故有賀長敏先生、小林正明先生、ご指導いただいた、またいただいている諸先輩方、ご同輩、サークル「風」の柴田昌勝代表をはじめとする先輩、同輩とアートカラーラボの皆様、私の家族のお陰です。今回の受賞写真のご家族は、私共のスタジオに初めてお見えになられたのですが、一目見て、とてもセンスの良い、また笑顔をたやさない素敵な方々でした。その雰囲気を表現できれば、と思い一生懸命撮影した中の一枚です。今一度、このたびの受賞を励みに、先輩方が常日頃おっしゃられている、“その人らしさ”を表現するため、また、１枚の写真を通してお客様に夢と喜びを届けられるように、そして想いのたくさん詰まった営業写真に敬意を払い、生かされていることに感謝をしながら、日々精進していきたいと思います。
最後になりましたが、私のご縁のあるすべての方々にも感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
<弱いから迷いがあるから一生懸命>
（制作ラボ：㈱アートカラーラボ）

「縁側で」　下宮伸一　Shimomiya photo office（長野）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　F6.3　1/60　ストロボと自然光

■選評

昭和のレトロ感を感じさせるシチュエーションで撮っていますが、まず、この場所で撮ろうという作者の発想が素晴らしく、通常なかなか撮れるものではありません。妹さんの衣裳も普通とは違い、レトロ感を助長しており、さらに低いアングルから狙っていることも建物の古い雰囲気を見せることに成功しています。構図的にも縦線・横線をしっかりとおさえていて、奥の花びらを故意に入れていることも計算されており、まさにプロの仕事といえます。ストロボを使っていますが、それを感じさせない自然なライティングで、技術的にも高いレベルが感じられます。

■喜びの声

日本を代表する賞をいただき、大変光栄に思います。ありがとうございました。
また、これからもより一層、自分に厳しく励みたいと思います。
賞受賞の喜びとともに、諸先輩方々の中、一代目の写真屋という私が選ばれたということで、若い芽が育つ環境の写真業界になっていくのではと、夢と希望が見え、大変嬉しく感じております。
歴史や文化を含め、お客様の思い出を後世に残し、繋ぐことが私の仕事だと思っております。
今回の七五三写真も、本来の子供らしさ、七五三らしさが残るように配慮いたしました。
お母様が着た着物。そして、実家で生活し、暮らした思い出の場所で撮影して欲しいとのご要望でした。
スタジオで培った技術をお客様の元へ持って出ることで、お客様の思い出と写真家の技術が一緒になり、本物になるのではないかと考えます。『スタジオのスタイルにお客様が合わせるのではなく、お客様のスタイルに合わせることが大切。』というコンセプトで常日頃から撮影しております。
感動や思い出は現場で起きています。大切な場所で、天候の変化の中、光を作り読み取ることをこれからも精進するとともにお客様の思い出を追求していきたいと思います。
（制作ラボ：㈱アオバカラー）

「白寿のお祝いの日」　四方一雄　写真のたちばな（京都）

データ：フジカラー PRO 160NS　127㎜　F5.6　1/125　ストロボ　UVフィルター

■選評

穏やかな人間性が表現された、優しくかつ、それまでの生き方までを写しとった奥深い作品に仕上げられています。画面構成上、上下を切り詰めたことによって、もっとも見せたい手や顔を強調しているところに、フレーミングに関しての高い技術力を感じます。バックも床の間で、和のイメージのなかで被写体との調和を意識しています。また、この表情からは安心感も感じられ、カメラマンに心を許していることが分かります。無理にポーズを付けることなく、自然な流れのなかで、ほんの少しだけ味付けして仕上げているところが素晴らしく、作者の高い感性が感じられます。

■喜びの声

銀賞を初めて受賞して
佐藤銈（ケイ）様、白寿をお祝いされるご家族の集合写真を写させていただきました折、私の希望でお一人の肖像写真も写させていただきお礼申し上げます。今回その時の一コマが選ばれ大変光栄に思います。ありがとうございました。
450年以上前に能面師は面を打たれるのに哲学を持っておられました。顔の右半分と左半分では心を表現するために変化がつけてあるのですが、ローソクやかがり火で浮び上がるその表情の違いを大衆も理解できたのです。私達もお客様から喜んでいただけるよう、どの角度や表情がその人らしさを表現できるか、毎日試されています。瞬時に一瞬を写し止めるのです。
全国の写真の良さを伝える会の皆様のギャラリーで見せていただけるオリジナルプリントは、大変細部にわたり光を美しく扱っておられて刺激的。これからも益々皆様のご指導、ご鞭撻を心よりお願い申し上げお礼の文とさせていただきます。
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ）

銀賞

「夫婦」　岡田真之介　おかだ写真舘（愛媛）

データ：デジタル一眼レフ　70㎜-200㎜　F9.0　1/80　ストロボ

■選評

お二人のキャラクターをそのまま活かして撮っていますが、おそらくお二人の個性を壊さないで自然に撮ることに専念したのだと思います。ご夫婦揃ってこうした素敵な笑顔を見せることは珍しいといえますので、そのシャッターチャンスを捉えた作者の優れた「人を見る目」が感じられます。構図的に多少窮屈な感じはありますが、お二人の重なり具合いやご主人の手、バックへの温かい光も生きていて、微笑ましい写真に仕上げられています。コミュニケーションを重視して表情を誘導したカメラマンの優しい心遣いがみえてきそうです。

■喜びの声

このたびはまさかの銀賞をいただき誠にありがとうございます。
プロ野球選手の夢を諦め、ぽっかり空いた夢の空白を模索し続け約７年。
父の跡を継ぐ意思など微塵もなかった僕が、祖父と父が地域の方々に愛され築き上げてきた写真館をただ残したいという思いだけで入った写真業界。
写真学校も行かずまだ未熟すぎる僕が、夢の入賞を飛び越え銀賞をいただけたことが、「本当にいいの？」というのが率直な想いです。
受賞通知前まで、「こんな自分が３代目としてやれるのか？」と自問自答の日々を送っていましたが、賞はもちろん、「俺でもできる。やれる！」という自信をいただけたことが何より嬉しいものです。
この作品のご夫婦は幼少時より僕を孫のように可愛がり、温かく見守ってくれている方で今まで父が何度も撮影してきたご夫婦ですが次に撮影に来てくれた時は「自分が絶対撮る！」と思い続けていました。
撮影時はお二人が持つ雰囲気、仕草、優しさだけを感じ、とにかく心を込めてシャッターを切りました。
自分の子ども達を撮る以上に（笑）その結果お二人らしさ、優しさを表現できた一枚になったんだと思います。最後に、特に教えたりしないけど背中で写真を教えてくれる父。小うるさいけど最後は好きなようにさせてくれる母。
結婚後、急に実家の跡を継ぐと言った自分に黙ってついてきてくれた絵美。愛する３人の娘達。
そして、今までお世話になった全ての皆様。心から言わせてください。「ありがとう（ございます。）」
（制作ラボ：㈱ラボネットワーク）

銅賞

「二十歳のリサちゃん」　奥山陽一　㈲スタジオ夢物語（北海道）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-105㎜　F4.5　1/125　ストロボ

■選評

女性の美しさ、健康美、爽やかさをストレートに感じる作品です。体の傾き、肩から腰にかけての流れ、丸み、そしてボリュームがこの写真の魅力で、女性のフォルムの美しさが優しく表現されている点にカメラマンの豊かな感性が感じられます。カラーハーモニーも最適で、三方だけの黒フチを含めて全体のハーモニーがお洒落に表現されています。珍しい形の黒フチですが、写真の見せ方として成功していますし、新鮮な表現手法だと感じます。画面下がビネッターかもしくは後処理で落としていますが、もう少し弱い方が良かったと思います。

■喜びの声

目標としてきた営業写真業界最高峰の富士フイルム営業写真コンテスト。
ちょうど５年前に北海道で次は必ず自分が帝国ホテルの扉を開けてみせる！！と宣言してから鳴かず飛ばずの５年間でした。
帝国ホテルの玄関先で警備員に押さえ付けられ、開いていた扉を閉められるというリアルな夢を見たこともありました。最初はどうしたら三賞に入れるのか？というようなことばかり考えている自分がいました。
私の写真の始まりは営業写真ではなく、作品畑からのスタートでしたので自由奔放に自分の世界だけで表現をしてきたような気がします。しかしこの５年の間に営業写真の奥深さを私に伝えてくださる多くの先生方との出会いや、東日本大震災のように多くの尊い命が失われる悲しい出来事が起こったり、その現場に立ちながら「命」を深く考えさせられるさまざまな経験をさせていただきながら、一枚の写真をお客様に残していただくことの意味や、お一人お一人と向き合うこと、自分が写真の世界で生きること、等々今までの自分に足りなかったものを考える５年間でもあったような気がします。これも富士フイルム営業写真コンテストが今日まで続いてきてくれたからこそ考えられたことだと関係者の皆様には心より感謝申し上げます。
一枚の写真の中にはお客様、撮影する私、そして関わる人の全ての「命」が深く関わっているのだと考えます。私の仕事は「命」を撮影させていただいています！！　と胸を張って言えるようにこれからもこの道を真っ直ぐ歩いて行きたいと考えます。
結びに・・・私を写真の世界に導いてくださった故清水正之先生と藤井満生先生。想像と創造の世界を学ばせていただいている日肖写の先生方。　共に切磋琢磨し合う伊豆倉会長をはじめとする北営協の皆様。営業写真の奥深さを学ばせていただいている柴田先生をはじめとするポートレートサークル「風」の諸先生の皆様。プリントをしてくださるロイヤルカラーの皆様。
そして何よりも支えてくれている家族と、全てのお客様に心より感謝を申し上げます。（制作ラボ：㈱ロイヤルカラー）

銅賞

「ハッピーウェディング」　菊地邦弘　菊地写真館（山形）

データ：デジタル一眼レフ　F5.6　1/125　ストロボ

■選評

お二人とも赤の衣裳で、強烈なインパクトを持っていますが、その強い個性をシンプルなバックでそのままナチュラルに表現しています。来館されたお客様の思いを形にしてあげるのが写真館の仕事ですが、その意味でも、派手ともいえる衣裳と明るいお二人のキャラクターをそのまま形にしています。バックグランドライトの使い方も効果的で、計算されています。足のラインも綺麗にまとまり、白の手袋もアクセントとして効いていて、さらにブーケの持ち方も個性的で、明るく天真爛漫な雰囲気を表現したところに作者の素直な感性が感じられます。

■喜びの声

このたびは、栄えある銅賞をいただきありがとうございます。
『いつかは帝国へ…』と、営業写真に関わりお客様の写真を撮影させていただき始めた頃からの心に秘めた想いであった、私の夢が叶い、やはりあふれる嬉しさはおさえきれないというのが素直な感情です。これもひとえに、山形営協、嵐の会、福森塾、六花塾、A75＋－、そして家族、写真を通して私が出会った多くの方々のおかげであると感謝の気持ちでいっぱいです。この作品は、今年３月披露宴をなさった須藤さまご夫妻の前撮り写真のうちの１枚です。
スラリとしてハンサムな新郎様と笑顔のステキな新婦様で、こちらもワクワクしながら楽しく撮影させていただいたのを覚えています。
時代の多様化とともに、どうしても作り上げてしまう傾向にありましたが、最近ではお客様の魅力を十分に観察しながら、なるべくシンプルに表情だけを重視して撮影することを心がけております。五十を過ぎ、私にとってこの賞は大きな励みになりました。これからも上位入賞を目指してますます楽しく撮影していきたいと思います。
最後になりましたが、アオバカラーの寺尾社長はじめスタッフのみなさんに心から感謝いたします。ありがとうございました。
（制作ラボ：㈱アオバカラー）

銅賞

「Sorrow in Black」　オヌキ ヒサシ　㈱小貫写真館（茨城）

データ：デジタル一眼レフ　85㎜　F2.5　1/125　ストロボ

■選評

その人らしさ、アイデンティティーを表現するというのが今の営業写真の大きな流れとなっていますが、その点でこの写真は女性の美しさと性格（生き方）を表現しています。何かクリエイティブな仕事をしているのかと思わせるような、お洒落なイメージを強調しています。画面構成としても、足を組んで最適なところでカットし、腕の形と合わせて三角形を二つ重ねたことも効果的で、計算されていると思います。ライティング、露出も最適で、黒のバックグランドと人物の分離、髪の毛・黒の洋服のラインも出ており、技術力の高さを感じます。

■喜びの声

昨年に引き続き、今年度も上位入賞、心から感謝しています。
と、同時にほっとしている自分もいます。
昨年は金賞をいただき、「今年、富士フイルム営業写真コンテストの賞をいただけなかったらどうしよう！」とプレッシャーのかかる中､銅賞の連絡をいただき、うれしさのあまり妻とハイタッチをしました。
私の撮影スタイルは、撮影前にお客様とカウンセリングをし、感じた魅力を私の中でイメージ化し、ビジュアルで表現しています。今年の写真も、お客様の魅力をそのまま表現したものです。ローキーの中で、彼女の長い手足の美しさを出しながら、美しさの中の悲しさを表現しようと思いました。黒の中の黒のディテールを出すために、しっかりとライトコントロールするのが難しいところがありましたが、それを評価していただき、とてもありがたく思います。
私自身、写真館に生まれ、育ってきている中で、写真館のいい部分と弱い部分を見てきました。いい部分とは、人々の思い出になる写真を高い技術で残せること。弱い部分とは、技術が先行してしまい、発信力が足りず、自分たちのすばらしさを一般的に広められないこと。私は、その写真館の持っているすばらしい部分を、今後さらに社会に発信していきたいと思っています。そのためにも、このような賞をいただいたこと、とてもうれしく、心から感謝しております。
今回賞をいただいたのも、わたしの大切な㈱小貫写真館とプリスのスタッフがつねにがんばってくれているおかげです。と、ともに私を支えてくれている家族、ホントにありがたいです。そして、わたしが写真のすばらしさを伝えるためにはじめた、フォトグラファー養成講座のみんなのエネルギーがこの賞を取らせてくれたと思っています。本当にありがとうございました。
これからもどんどん写真のすばらしさを伝えていきたいと思っています。
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ　プロテク・イースト）

銅賞

「仲良しフレンド卒園記念」　髙橋直也　写真のリコー（静岡）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-105㎜　F7　1/125　ストロボ

■選評

幼稚園の卒園写真ですが、この年代のお子さんをこれだけまとめるというのは至難の業だといえます。一直線に並べていますが、一人一人、体の向きや顔の傾きを変えて変化を付け、さらに画面中央に一列に配置された修了証書も、オビになってリズムを作って画面に統一感を表しています。全員が足を組んでいますが、左から４番目が男の子で足を組んでおらず、その男の子によってリズムを変え、それが隠し味になっています。全員の笑顔が卒園の嬉しさを物語っていますが、その笑顔とともに全体的なデザインの良さがこの写真の魅力となっています。

■喜びの声

このたびは、歴史ある富士フイルム営業写真コンテストで名誉ある銅賞をいただけたこと誠にありがとうございます。
私は毎年富士フイルム営業写真コンテストに応募させていただいております。お客様に喜んでいただける写真を作るために、自分の技量と１枚に込める想い、写真作りの方向性が正しいのか明確な認識を求めてです。そして今回、自分がやってきた写真への取り組みは間違ってはいなかったと実感できました。ですが、今回このような素晴らしい賞をいただけたのは、私１人の力では決してございません。今日までさまざまな巡り合わせでお会いできた方々から刺激を受け、多くのことを学ばせていただいたからです。その中でも、最も運命的な出会いであり、心から感謝をお伝えしたい方がいます。恩師であり私の写真の原点であります、福岡県・おざき写真館の小﨑修平さんです。【“写真は『物語』”、１枚の中にストーリーを想像できる写真を作る…。】修平さんのお言葉です。このお言葉を胸にこれからもお客様お１人お１人の『物語』を『宝物』にしていただけるような写真を作れるように精進し頑張りたいと思います。
最後に、修行時代大変お世話になりましたおざき写真館の皆様と、今回の写真に携わってくださいました㈱山下商会の方々、PGCや静岡県写真館協会の皆様、そして、わがままな私を支えてくれる家族に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
（制作ラボ：㈱山下商会　静岡プロカラー）

銅賞

「颯人君、６年生。」　松山真彦　松山写真㈱（静岡）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　F8　1/100　ストロボ

■選評

活き活きとした元気さが表現されている爽やかな作品です。純真な少年をしっかりと捉え、前傾の姿勢には動きを感じさせ、そして帽子のダメージ感とで素朴さを引き立てています。ライティング面では、横からの強い光でハイライトが飛び気味になっていますが、これは夏のイメージを狙って故意に光を作っていると思われます。夏の雰囲気と相まって、目の輝きと爽やかな表情、そして体の動きで元気いっぱいの姿を描写しています。帽子の青とランドセルの青で色の調和もとれています。バックに光があればもっと良かったと思います。

■喜びの声

このたびは銅賞をいただき誠にありがとうございました。昭和58年に父、松山均が金賞をいただいたとき、私はまだ小学生でしたが、今でもその当時のお祝いの雰囲気が記憶に残っています。以来、私の憧れであり目標でありました「富士フイルム営業写真コンテスト」で今回上位入賞することができ、本当に嬉しく思います。これもひとえにいつも当館を贔屓にしてくださいますお客様、親身になってご指導してくださる写真業界の先生方、先輩方、仲間のみなさん、スタッフ、家族、プロカラーラボ様、私を支えてくださる全ての皆さんのおかげです。ありがとうございました。写真の颯人くんは、妹の花音ちゃんと毎年それぞれにテーマを決めて撮影しています。今回は小学校生活最後の思い出にと、長年愛用のランドセルと一緒に撮影しました。彼の成長と、それに伴いだんだんと小さく感じられるようになったランドセルとの対比や、６年前のピカピカのランドセルの入学写真とを並べて見るおもしろさを想像しながら撮影してみました。兄妹お２人共とても素直に成長され、私達もいつも気もちよく撮影させてもらっています。
私は、営業写真ほど面白く、楽しく、楽観的でポジティブな、人の生きる喜びをダイレクトに表現できる写真はないと思います。これからもお客様に喜ばれる写真づくりに励んでいく所存です。最後に私の大切な撮影パートナーでもあります妻の靖子さん、いつも本当にありがとう、これからもよろしくね！
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ）

銅賞

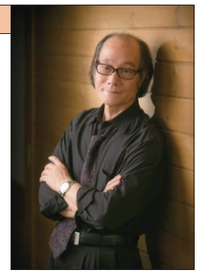
「もうすぐお兄ちゃんだね」　大西邦夫　㈲スタジオ・クニ（愛知）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　F8　1/200　ストロボ

■選評

数あるマタニティー写真のなかで、最も明るく爽やかに表現された優れた作品です。お子さんをこんな風に抱っこしたマタニティー写真は珍しいといえ、そのうえ、お子さんを裸にしたことが成功し、お子さんの肌とお母さんのおなかの肌で一体感を感じさせます。また、お母さんの顔の傾げ具合と下に垂れている髪、体の流れが躍動感を出して元気さを強調しています。そしてこの写真の魅力の一つがお母さんの右手で、お子さんを思う気持ち、愛情が表現されています。明るいイメージのライティングも適切で、白のトーンも良く出ていますし、技術的に素晴らしいといえます。

■喜びの声



このたびは銅賞・息子（真人）の優秀賞と、二人揃って栄えある賞をいただきまして、誠にありがとうございました。新しく支店をオープンした年、しかもスタジオ・クニとしてこれまで特別大切にしてきた９月の２日に入選の一報をいただきました。富士フイルムさんより私達二人にエールを送っていただいたように思えて、とてもうれしく思っています。
今回の作品のモデルさんは、お住まいは東京の方でお父様がイギリス人のとてもイケメンの男の子と素敵なお母様です。この時５回目のご来店でしたが、撮影の途中で飽きてしまった彼と、機嫌をとってくださっているお母様との二人の仕草がとても幸せそうに見えて、最後にお母様のお身体を心配しながら数枚撮らせていただいたものです。この賞はお二人からプレゼントしていただいたようなもので本当に感謝いたしております。ありがとうございました。
修業時代にタナベ写真館で一緒だった青森の小田島君から「いつか帝国ホテルで逢おう」と言われたことがありました。彼の金賞から13年もかかってしまいましたが、私の技量ではとても無理と諦めていたことが現実となって、いまだに夢のようです。
一度営業写真から離れた私を、もう一度この道に呼び戻してくださった田辺先生にお礼を申し上げたいと思います。そして、これまで長年一緒に頑張ってきてくれた妻も、家族のみんなも、ありがとう‼
（制作ラボ：富士フイルムイメージングプロテック㈱）

銅賞

「ボクの妹」　川地清広　㈲写真の川地（三重）

データ：デジタル一眼レフ　90㎜　F2.8　1/125　ストロボ

■選評

家族愛が表現された素晴らしい作品です。ハイエストからディープシャドーに至るまでトーンが綺麗に出ており、光の扱い方に優れた高い技術力を感じます。お兄ちゃんの右手がこの写真のポイントで、おそるおそる手を近づけて、それを見守るご両親の優しくも心配そうな表情とで物語を感じさせます。画面構成的に、ご両親が大きく写っていますが、お兄ちゃんの白いハイライトと右手、そしてベビードレスと赤ちゃんの顔に当てられた光で、一点集中の効果を出しています。お母さんのネックレスもアクセントとして効いていて、それらを含めて総合的に完成度の高い作品に仕上げられています。

■喜びの声

このたび、銅賞ありがとうございます。
今までフィルムにこだわり続けてきましたが、
２年前にフィルムを断念して、デジタルに切り替えて、試行錯誤しながら写真創りに取り組んできました。
カメラはもちろん、照明器具、特にストロボに悩みました。
デジタルは、弱い光でもすごく感じて明るくなってしまい、どうしても絞りを絞り込んでしまいがちです。
フィルムのような柔らかい味を出したくて色々考えた結果、ストロボの光量を最大限に下げて撮影するようにいたしました。
この写真はお宮参りで、通常の記念写真とは別に家族四人のあたたかさの写真をご依頼され、スカイライトをベースに、サイドより少し光を入れてライティングした撮影です。
デジタル化になってからは、ストロボの光量を下げ、絞りを開けて少しでも奥行感、立体感を求めています。
アナログカラープリントの時代はモノクロのように、覆い焼き、焼き込みができませんでしたが、デジタルになってコンピューター上でも少しは可能になり、写真創りが楽しくなってきました。
あと何年続けられるか分かりませんが、出来る限り頑張る所存です。
ありがとうございました。
（制作ラボ：富士フイルムイメージングプロテック㈱）

銅賞

「なかよし列車」　平岡義弘　㈲平岡写真館（広島）

データ：デジタル一眼レフ　28㎜-70㎜　F5.6　1/125　ストロボ

■選評

テーマ通り、仲良し感が表現された微笑ましい作品です。グループ写真の場合、仲良しという関係と一人一人の個性をも表現したいところですが、この写真ではそれを両立しています。制服は一緒ですが、カバン、靴、そして表情もバラバラで、まとまり感があるなかで一人一人の個性も生きています。それを俯瞰で捉えたことで変化を付け、画面構成に味付けをしています。4人ともカメラマンを意識していますが、それだけではなく、表情と動きから何か役割分担のような形ができており、その一瞬を的確に捉えた作者の鋭い感性が光る写真です。

■喜びの声

このたびは「銅賞」という栄えある賞をいただきありがとうございます。一次審査を通過できたということだけで、大喜びしていたところに銅賞受賞の連絡を受けて「えっ？ マジですか！？」と、ビックリしたとともに夢がかない嬉しさが込み上げ、出張先で報告を受けたものですから、一人でニヤニヤしていました。
入賞させていただけたのも、これもひとえに、ご来館くださるお客様、営業写真館の素晴らしさ、使命や本質を私にご指導いただいた小崎弘之先生、師匠の小崎修平さん、福森塾の福森さん、この業界の諸先輩方、一緒に写真づくりを学ばせていただいている塾の仲間、スタッフや私の家族、いつも励ましてくれる友達、いろいろな方々にお世話になり支えていただいたお陰だと感謝しています。
受賞作は、日頃から七五三などでご来店いただいているお子様方で子どもたちのナチュラルな動きや無邪気なかわいさを出せたらと考え撮影をさせていただきました。子どもたちのノリの良さと、何よりも楽しく撮影できたことがよい結果につながったのではないかと思います。
今後も受賞した喜びを素直に受け止めてお客様と写真に真剣に向かい合い楽しく、そのヒト、その瞬間を大切にお客様が10年後、20年後に写真をご覧になられて「私の家族って幸せ！」「僕たち私たち、仲良しだったね、かわいいね」と想っていただける一枚を撮り続けていきたいと思います。
（制作ラボ：㈲平岡写真館）

銅賞

「ファミリー（オシャレ感）」　小山朋子　㈲小山写真館（香川）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　F2.8　1/15　蛍光灯

■選評

これまでの営業写真の観点から見ると、不思議な世界を表現しており、非常にインパクトのある写真となっていて、営業写真の新しい方向性を示した作品といえます。蛍光灯を使ってデジタルカメラで撮ることによって、こうした写真が撮れる環境ができています。デジタル化によって表現の幅が拡がっているなかで、その拡がりの延長線上の写真です。奥様の動きと、ワンちゃんの配置、視線とでお洒落な家族感を表現していますが、家族というよりはむしろポートレートという見方で見た方が良いかもしれません。いずれにしても表現の幅を拡げるきっかけになるような、これからの写真といえます。

■喜びの声

とっても嬉しい～
光栄に思います

毎年お越しくださり
いつもお任せで
お嬢さまやわんこの話に始まり
いつの間にか自然に
撮影に入っているお客さまです
もう17年目を迎えました
ずっと前から感じてた
ファッションモデルのようなご夫妻のカッコよさ オシャレ感を
表現したいと思いました
奥さまには何度も歩いていただきましたが
その様子はほんとうに素敵で
お嬢さまたちも楽しそうに眺めていらっしゃいました
私のおもいをご夫妻が そしてわんこ達が
いい感じで受け止めてくださった
おかげだと感謝しています

そして
いつも私を支えてくれる家族
美しいエネルギーを与えてくださる辻文作先生
ともに勉強する仲間たち
綺麗に仕上げてくださるプロカラーラボさんには
感謝の気持ちでいっぱいです

これからも 美しい を感じながら
努力していきたいと思います

ありがとうございます
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ）

銅賞

「職人」　湯本一生　ユモトカラースタジオ（徳島）

データ：デジタル一眼レフ　100㎜　F3.5　1/500　自然光

■選評

職人さんを撮るというと、作業をしている姿を撮るケースが多いなかで、この写真は働く男性を格好良く、かつ人間的な魅力を引き出すことに注力しているように思われます。職人としての部分を誇張しすぎることなく、男性の魅力を追っていることがこの写真の優れたところですが、かといって情報として看板や前掛けなどで職人を意識させており、そのバランス感覚が素晴らしいといえます。周囲を落としてローキー調にまとめ、頭の白いタオルと光が強く当たっている腕、それに前掛けの赤い紐で色彩的にもお洒落に構成されています。屋外で撮るポートレートとしては人物の立つ位置、体の前後のスペースの取り方が上手く、カメラマンとしての職人気質が生きています。

■喜びの声

このたびは栄えある賞を受賞することができ、本当に嬉しく思います。心より感謝申し上げます。私にとって毎年目標にしている富士フイルム営業写真コンテストは、全国の写真館の、素晴らしいかつ個性あふれる写真を一度に見て、勉強できる大切な場所となっております。そのようなコンテストで上位入賞できたことは、励みであり自信になります。

この賞は、私一人の力でいただけたものではなく、ご来店くださるお客様をはじめ、私たちをご指導してくださる方々の存在、いつも美しくプリントしてくださる㈱プロカラーラボ様、皆様のおかげです。

これから、まだまだ写真業界も厳しくなると思いますが、お客様の期待以上のお写真を、「思い出づくりのお手伝い」という気持ちをこめて、撮影していきたいと思います。

本当にありがとうございました。そして、この素晴らしいコンテストが、どうかこれからも続いていくことを願います。

（制作ラボ：㈱プロカラーラボ）

フロンティア賞

「視線」　柳 祥平　㈱小貫写真館（茨城）

データ：デジタル一眼レフ　F2.8　1/125　タングステン

■選評

この写真のポイントはいうまでもなく「視線」です。その視線を活かすために鼻と口を手で隠し、強い目の勢いを表現しています。お客様が来館し、カメラマンとしてどう表現しようかと考えたときに、こうした発想が生まれてくる作者の感性に驚きを感じます。ライティングはタングステンで撮影していますが、タングステンとデジタルが相性が良いと言われていますが、その可能性の高さを表した作品といえます。フレーミングの面で、天地の切り方もプロの力量を感じさせますし、肩の斜めの線、暗部側の空間処理も効いていて、随所に作者のセンスの良さが光っています。

■喜びの声

このたびは栄えある富士フイルム営業写真コンテストのフロンティア賞をいただき誠にありがとうございます。知らせをいただいたとき入賞が信じられず夢か現実か分からなくなるほど混乱してしまいました。ずっと憧れでありました帝国ホテルでの授賞式、身に余る光栄です。

私は社長である小貫代表に、つねに被写体の魅力を感じそれを最大限に引き出すことを指導されてきました。

今回の撮影の際も被写体の魅力を探しました。

その魅力を絞り込んで表現したいと考えもしあえてひとつに選ぶとしたら、それは「目」でした。そしてそれを自分が思う最大限の手法で表現してみました。

日々いろいろな表現を自分なりに考え撮影しています。もちろん成功ばかりではなく失敗も多く、むしろ失敗ばかりかもしれません。

ただお客様の新たなニーズに応えられるよう、自分を高められるようチャレンジし続けたいと考えております。

また今回このような大変素晴らしい賞をいただきましたが決して奢ることなくさらなる努力を重ねお客様の大切な思い出の一枚を残すお手伝いができれば幸いです。

入社以来自分を鍛えあげてくれた小貫久史代表、共に働き汗を流すスタッフの皆さん、いつもわがままを聞いてくださるプロカラーラボの皆様、そして私の大事な妻と子供たち、守り神のような愛犬、多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。これからもよろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。

（制作ラボ：㈱プロカラーラボ　プロテク・イースト）

優秀写真アルバム賞
婚礼写真アルバムの部

「想い」　金子雅明　㈲はぎスタジオ（山形）

■選評

婚礼のアルバムですが、家のなかでの撮影がほとんどで、家族の思いが克明に表現された、これまでにない構成となっています。このご家族に密着したカメラマンでないとこうした絵は撮れないと思えるほど、家族のなかに入り込んで撮影していることが素晴らしいといえます。ページのなかにお母様の涙のシーンが記録されていますが、これも心を許しているカメラマンだからこそ撮れたのだと思います。家族のなかに入って記録していくというスタイルは、地域に根ざした写真館だからこそできることで、こうしたアルバムは今後も増えていってほしいものです。

■喜びの声

このたびは思いがけなく優秀写真アルバム賞を受賞させていただき本当にありがたく喜びに堪えません。富士フイルム様からの決定の知らせを受けた時も信じられず「ほんとに？」と何回も見直しました。今回のアルバムは２年前に亡くなられたお父様に見せたかった打掛姿を撮影してくださいという依頼でしたので、是非アルバムを作らせてくださいとお願いしました。すぐに思いついたのが、ご自宅でのお支度の様子、お仏壇に花嫁が手を合わせる様子、小さい頃お父さんに遊んでもらった公園の風景、玄関、庭などを入れて撮影することでした。自然光で特別なポーズをとってもらわないでシンプルなアルバム構成になるよう心がけました。お嫁さんは庭で犬が入っての家族写真を一番お気に入りのようでした。アルバムを納品して見ていただいて最後に拍手をして「私のほしかった写真はこれです」と言っていただいたことが何よりも嬉しいことでした。これを機会に写真とじっくり向かい合い、本当にお客様のほしい写真とは何か？ということを考えながら写真作りに精進してまいりたいと思っています。カメラマンの作品作りのための写真にならないよう、お客様の要望をよく聞いて進んでいきたいと思っています。
私の写真作りを刺激してくれたPGCの皆さんには心より感謝します。気持の高ぶりを持って、そしていい写真を意識して新たな写真作りに努力してまいりたいと思っております。今回の受賞本当にありがとうございました。
（制作ラボ：㈱ラボネットワーク）

優秀賞

「礼文のかあさん。」矢吹尚也　㈲矢吹写真館（北海道）
データ：デジタル一眼レフ　85㎜　F2.8　1/30　自然光

「エンゲージメント　フォト」須栗裕幸　㈲光影スタジオ（新潟）
データ：デジタル一眼レフ　70㎜-200㎜　F2.8　1/250　自然光

「おとぎばなし」佐々木宏和　佐々木写真館（愛知）
データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　F5.6　1/125　ストロボ

優秀賞

「凛として」西岡 亮
MERRY LaRaLa... Photo Studio（三重）

データ：デジタル一眼レフ　70㎜-200㎜　F2.8
1/125　自然光

「天使の羽」相川和代　コマエ写場（広島）

データ：デジタル一眼レフ　F3.5　1/250　自然光

「ギュー♡」大西真人　㈲スタジオ・クニ（愛知）

データ：デジタル一眼レフ　56㎜　F2.8　1/200　自然光

「NEW BORN」野上徹治　写真の野上（滋賀）

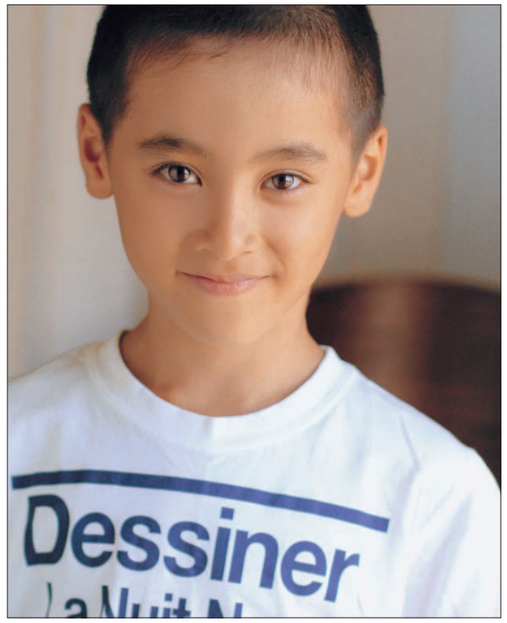
データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　F3.2　1/100　タングステン

「ゆいかちゃん」太田順二　すみれ写真館（佐賀）

データ：デジタル一眼レフ　28㎜-70㎜　F8　1/125　ストロボ

「大きな父」田中克慶　㈲田中写真館（鹿児島）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　F8　1/125　ストロボ



「元くん」緒方健一郎　写真のおがた（鹿児島）

データ：デジタル一眼レフ　50㎜　F2.8　1/80　自然光

第1部〈行事〉婚礼写真の部

「雅び」

森田一弘　㈲森田離峰写真場（北海道）

「仏家の婚礼」

奥田高広　㈲奥田写真館（千葉）

「ヒカリ」

小林貴　アリアコーポレーション㈱
アニヴェルセル東京ベイ写真室（東京）

「ぞがおの二人」

小田島幸夫　スタジオおだしま（青森）

「ほほえみ」

大澤友子　ホテルメトロポリタン盛岡新館
NEW WING 写真室 ㈱佐藤写真（岩手）

「Wedding」

宮崎英光　パレスホテル東京写真室 DAYS（東京）

「花嫁」

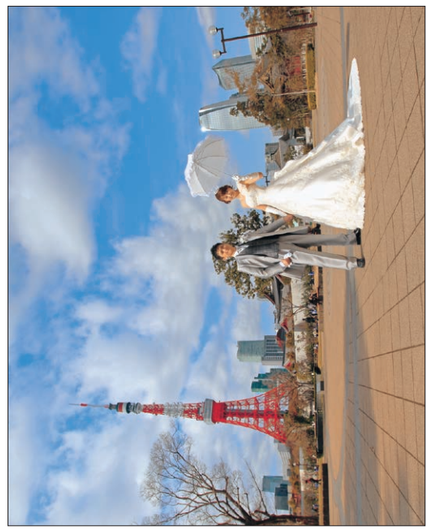
宮英起　㈱佐藤写真（東京）

「二人の道」

山田憲郎　㈲山田写真館（長野）

「東京タワー」

辻昇吾　㈱ウエスト Brilliant THE 銀座（東京）



「静かな時の中に」

山内孝実　㈱花田写真館（福岡）

テーマ賞 第１部〈行事〉婚礼写真の部

「大切な人」
古舘さやか　アジュールラボ㈱（大阪）

「ウェディングドレスの菜知」
菅原 忠　スタジオ・ハート（広島）

「幸せのウェディングドレス」
廣田庸二　㈱ヤヨイ写真館（愛媛）

「マーメイド」
村岡健太郎　むらおか写真館（福岡）

「父の仏前にて」
すぎやま こうじ　アートスタジオすぎやま（福岡）

「joyful」
山口潤一　㈱堤写真館（熊本）

「娘を頼んだぞ」
秋津忠博　秋津写真館（鹿児島）

「パパと一緒」
高山忠浩　㈱ハートピア（福岡）

「華燭」
平川憲一郎　㈱杉田写真館（福岡）

「幸せ色のパープルカラー」
松田綱男　㈱杉田写真館（福岡）

テーマ賞 第１部〈行事〉入園卒園・入学卒業写真の部

「オレ中学生!!」
遠藤隆央　㈲遠藤写真館（北海道）

「卒業した よ～!!」
武藤芳行　㈲秩父写真館（埼玉）

「「杏ちゃんスマイル」のやり方」
田中久也　写真屋さん ちゃいるど倶楽部（東京）

「卒業!! いえ～い!!」
岡村マサル　㈲岡村写真工房セピア（北海道）

「２人」
藤田 淳　フジタスタジオ（北海道）

「おめでとう!りょうまくん」
赤井大司　あかい写真館（和歌山）

「入園しました～２０１４」
登里直樹　ちどり写真館（兵庫）

「仲良し８人の卒園記念」
阿那守男　阿那写真館（兵庫）

「はるなちゃん」
石川江亮　江陽写真室（宮城）

「うれしい入園」
吉田智一　吉田写真館（福島）

テーマ賞 第１部〈行事〉入園卒園・入学卒業写真の部

「みんな卒園おめでとう」
佐々木 順　みつわ写真館（埼玉）

「姉の卒業…優しい家族愛」
宮澤泰也　㈲宮沢写真館（長野）

「おめでとう！まこちゃん」
須栗裕幸　㈲光影スタジオ（新潟）

「元気なまよちゃん」
大西真人　㈲スタジオ・クニ（愛知）

「高専大会最後の夏～勝利へシュート～」
真鍋昭博　ひかり写真館（香川）

「卒業の日に」
湯本一生　ユモトカラースタジオ（徳島）

「らくがきアート」
吉田弦矢　イナバフォトスタジオ（福岡）

「お兄ちゃんの卒業記念」
津留洋太郎　ムラフォトスタジオ（福岡）

「卒業!!これからもよろしくね」
太田順二　すみれ写真館（佐賀）

テーマ賞 第１部〈行事〉成人式、七五三写真の部

「楽しい～！七五三!!」
松村賢浩　まつむらフォトスタジオ（神奈川）

「ボクの晴れ舞台」
飛鳥井智代　㈲セイタ写真館（神奈川）

「楽しいね！」
伊藤哲也　ｉスタジオ（山梨）

「きょうだい３人で七五三」
三宅哲弘　みやけ写真館（鹿児島）

「のあちゃんの七五三」
矢上弘幸　矢上写真館（鹿児島）

「ingenuous」
田中賢治　アサヒ写真館（徳島）

「Joy」
甲斐浩充　ぎおん写真スタジオ（宮崎）

「未来の自分へ」
平本海彦　スタジオ夢物語（北海道）

「僕の七五三」
八幡峰代子　八光スタジオ（岩手）

「成人の喜び」
石川孝志　日本橋高島屋写真館（東京）

「二十歳のはなえさん」

染矢博幸　写真のそめや（大分）

「文香さん」

緒方健一郎　写真のおがた（鹿児島）

「ハイポーズ！」

野田エイタロウ　小さな写真館ABCスタジオ（沖縄）

「なでしこ！」

安部信秀　安部写真館（沖縄）

「七五三のお祝い」

大西邦夫　㈲スタジオ・クニ（愛知）

「なでしこ」

西岡 亮　MERRY LaRaLa... Photo Studio（三重）

「縁の中で」

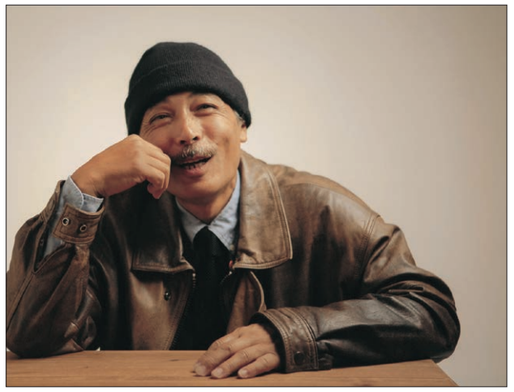
鎌内秀樹　いぬづか写真室（兵庫）

「華」

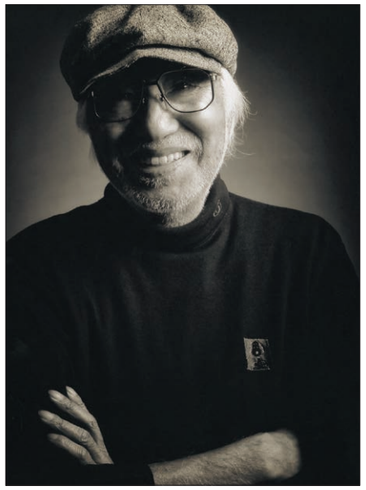
木本智之　㈲キモト写真場（徳島）

「へいっ！　大将！」
髙野　純　一の宮写真館（神奈川）

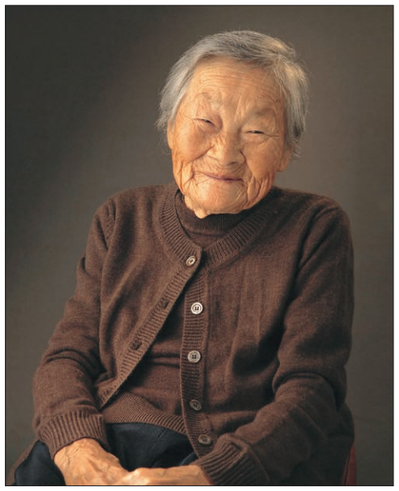
「功労の証」
川嶋章水　㈱エクボスタジオ（滋賀）



「人生まだまだこれから！」
朝風恵子　あさかぜ写真館（北海道）



「英生（えいせい）さん。」
矢吹尚也　㈲矢吹写真館（北海道）



「たつ子おばあちゃん」
東畑達也　㈲トーハタ写真館（静岡）

「50年いっしょ」
末次克幸　吉井スタジオ（福岡）

「ありがとう」
渋谷知宏　シブヤスタジオ（秋田）

「＝人生これから＝」
伊藤　熙　㈲伊藤写真館スタジオエイム（宮城）

「茶道」
富川　哲　富川スタジオ（愛知）

「たけしさん」
堤　賢一　伊勢丹写真室（東京）

「音楽の感じで」

大塚雅晴　いぬづか写真室（兵庫）

「楽器を買ってもらえた日」

松島ツナオ　松島写真場（岡山）

「40年後、教え子たちと…」

甲斐早央里　はこざき写真館（福岡）

「お祝♡古稀」

うえのみき　㈲うえのスタジオ（長崎）

「ライフフォト　達」

坂本香織美　フォトスタジオビタミン（福岡）

「LOCK ON」

吉岡慎太郎　㈲吉岡スタジオ（福岡）

「フォトコンテスト　A」

明石一矢　フォトスタジオビタミン（福岡）

「少女の眼光」

佐々木克明　㈲佐々木写真館（大分）

「思いを込めて」

工藤正浩　くどう写真館（大分）

テーマ賞 第2部〈一般〉子供ポートレート写真の部

「犬の散歩」
原 一友 ㈱原スタジオ（北海道）

「ももちゃん」
福田鎌一郎 ㈲福田写真館（北海道）

「私たちの結束力」
太田奈々絵 ㈲太田写真館（群馬）

「ちょっとひとやすみ」
加藤建三 フォトスタジオ一条舘（北海道）

「ハッピージャンプ」
志賀 大 フォトスタジオ デイズ（福島）

「やわらかな ひざしの中で」
山東尚史 ㈲ながおかスタジオ（京都）

「1才のぼくと」
平岡義弘 ㈲平岡写真館（広島）

「凛」
山登賢一 ㈲ヤマト写真館（栃木）

「ちょっとモジモジユノンちゃん」
佐藤奈央美 ㈲秩父写真館（埼玉）

「祭り3兄弟」
村上幸隆 村上スタジオ（福岡）

テーマ賞 第２部〈一般〉子供ポートレート写真の部

「私の記念日」
清田智勝　㈲セイタ写真館（神奈川）

「Little Angel」
加門賀子　カモン イグレック（三重）

「帽子の好きなユキナちゃん」
川地清広　㈲写真の川地（三重）

「だいき君」
潟沼宏美　あさひフォトスタジオ（奈良）

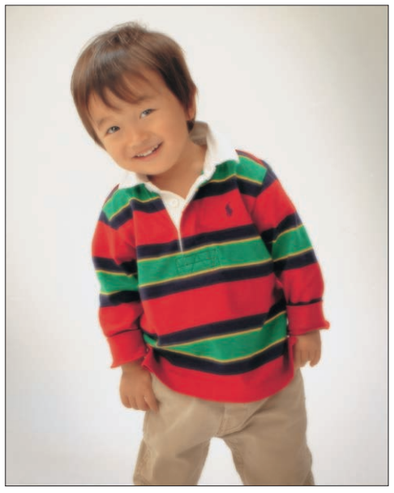
「だいすき！」
原田太一　原田写真館（福岡）

「はじめての　おたんじょうび」
島田健太郎　スミレ写真館（奈良）

「優しい時間」
西田朋之　にしだ写真館（福岡）

「楽しい祭り」
長谷川久代　㈱フォトスタジオシミズ（大阪）

「たいせいくんと　ことなちゃん」
塩屋大輔　写真のシオヤ（鹿児島）

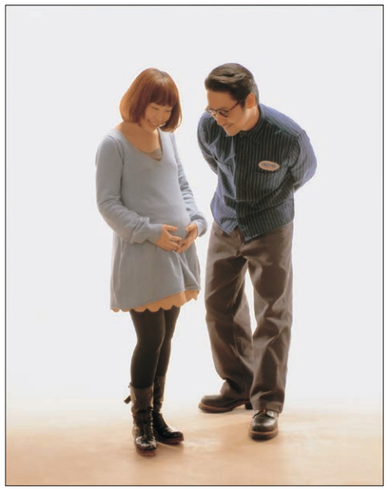


「あゆむくん」
中野　剛　もとまつ写真場（福岡）

テーマ賞 第２部〈一般〉家族写真の部

「ヨチヨチ歩き」
大塚邦子　㈱大塚スタジオ（秋田）

「ゴキゲンなハルト君」
福田ヒロジ　ふくだ写真舘（秋田）



「男の子？女の子？」
松本宗樹　㈾松本写真館（栃木）

「まなざし」
小原達郎　㈲フォトショップふたば（青森）

「パパ大好き！」
阿部貴彦　㈱阿部写真舘（宮城）

「書上ファミリー」
角田一利　角田写真館（群馬）

「お姉ちゃんだよ。」
田内光裕　㈲清水写真館（静岡）

「ナイスファミリー」
清田知子　㈲セイタ写真館（神奈川）

「ようこそ私たちの所へ」
まるやま耕司　㈲丸山写真館（長野）

「パパの肩で・・・」
滝澤一浩　タキザワ写真館（長野）

テーマ賞 第２部〈一般〉家族写真の部

「パパだよ～!!」
吉川昌幸　写真の光陽（福井）

「☆ SMILE ☆」
藤井孝幸　㈲I WILL 土居写場（広島）

「息子大好きお母さん」
重岡隼人　もとまつ写真場（福岡）

「いっせーの!」
佐々木宏和　佐々木写真館（愛知）

「88歳になったイエーイ!」
金田隆志　スタジオ・ヴィセーヌ出雲（島根）

「小串家」
荒木敬介　はこざき写真館（福岡）

「大好きなパパと」
吉田茂隆　吉田茂隆写真館（宮崎）

「我家のニューフェイス」
中野博隆　中野スタジオ（佐賀）

「夫妻」
田中克慶　㈲田中写真館（鹿児島）

「お父さん大好き」
糸洲寛磨　いとす写真館（沖縄）

2014 富士フイルム営業写真コンテスト
金賞作家を訪ねて……東京都 ホリスタジオ　堀 由貴子さん

人を愛情深く見て、生命力を感じてそれを表現。自分の人間性を高めながら……。

「まさか、そんなはずはない…」金賞受賞の一報を、呆然と信じられない思いで聞いていたというのが、東京・田無のホリスタジオ・堀由貴子さんです。

2014 富士フイルム営業写真コンテストの頂点に立った堀さんですが、取材にお伺いしたときも、金賞を受賞したという驕りや不遜といったものは微塵も感じさせず「すべてはお客様のお陰です」と謙虚に受け止め、この金賞を糧に今後も「来館されたお客様がご自身に自信をもってもらえるような写真を撮り続けたい」と話していました。

堀さんはこれまで、このコンテストでテーマ賞、優秀賞、銅賞、銀賞、そして今回の金賞受賞で、いわゆるグランドスラムを達成したことになります。ですから、その高い技術レベルは折り紙つきで、金賞も単なる偶然ではないことが実証済みです。

そもそも堀さんは、コンテスト応募はこの富士フイルム営業写真コンテストだけだそうで、他のコンテストには一切応募していません。

なぜ、このコンテストだけなのか、その理由については「私自身、お客様を綺麗に上手に撮るということが仕事なので、その視点と、富士フイルムさんがよりユーザーに近い企業体質であって、そこが合致していたので、富士フイルム営業写真コンテストだけは応募し続けてきました」と話します。

コンテストへのチャレンジはお客様への最高の恩返しに

また、もう一つ「コンテストに応募して、賞がいただけて写真を褒めていただくということは、そのお客様を褒めていただくことにも繋がるわけで、それがお客様への最高の恩返しにもなります。自分の技量が落ちないように、という戒めも含めて毎年チャレンジしているんですよ」と語るように、すべては“お客様のため”というスタンスで取り組んでいるところに堀さんの堀さんたる所以があるように感じます。

お客様への思いについてこんなことも述べています。「写真に情熱があって、思いの強い方が大勢いらっしゃいますが、私はそれとは違って、とにかくお客様を綺麗に、しっかりと撮りたいという思いだけなんです」と控えめに話しますが、そうしたお客様に対するシンプルな思いを貫いてきたことが、今回の金賞という形に結実したといえるでしょう。

さて、堀さんの金賞にたどり着くまでの足跡を追ってみると、写真館（東京・大泉学園の写真ホリスタジオ）の娘として育った堀さんは、高校卒業後、絵が好きだったことで美術大学に入学し、そして卒業後、写真関連の勉強をするために五十嵐写真店で１年間修業。その後すぐに渡米してエレンバックさんという女流写真家のもとで写真館について勉強した

堀 由貴子さん

ということです。

現在の田無のホリスタジオは、もともと堀さんのお母様が運営していく予定だったそうですが、そのお母様が病気で倒れたことで、急遽、堀さんが継ぐ形となったといいます。修業してきたといっても、写真館というのがどういう業務なのかという基本的なことを学んだだけで、シャッターを切ったこともない状態での、まさにゼロからのスタートとなったそうです。

1985 年10 月にオープンしましたが、ご本人曰く「無免許運転のようなかたちでの出発でした」と。そんななかで「これでは３年も持たないかもしれない」という危惧から一念発起し、お客様のために一生懸命勉強しなければならない、との思いで写真仲間とセミナーなどに行って写真創りについて勉強を重ねました。

生命力を大事にした写真

そして転機となったのが、大阪・フォトアトリエ辻の辻文作氏との出会いでした。辻氏が講師となっての定期的な勉強会が２カ月に１度のペースで開催され、それにできる限り参加したといいます。何度も行っていることで、辻氏からは「堀さんはもう教わることは何もないでしょう」とも言われたそうですが「これで良いということはないので、可能な限り参加しました」と飽くなき探求心。

「辻先生にはテクニック面はもとより、被写体にどう向き合うかといった精神的な部分を教えていただきました。とくに『生命力を大事にした写真を目指していただきたい』という言葉にすごく共感しました」と堀さん。人を愛情深く見て、生命力を感じてそれを表現する……堀さんの写真創りの原点がそこにあるといえるでしょう。

では、具体的にどう撮影に臨んでいるのでしょうか。お客様が来館されて、まずはインタビューをします。あまり立ち入ってほしくない方、またリアルに寄り添っていい方、そこを判断して丁寧に優しく話しながらお客様のことを見ていき、そして感じたままを写真にしていくことを実践しています。お客様を大事にするというのは基本中の基本ですが、堀さんの場合、シャイな人柄からにじみ出る静かな優しさがあって、それがお客様の心を開いているといえるでしょう。そしてそれが写真に反映されるわけです。

良い写真を残すことはお客様にプライドを植え付けること

堀さんに「営業写真って何？」と聞くとこんな答えが返ってきました。「この仕事の大きな役割は、撮りにきたお客様が自分に自信を持つための道具にならないといけないと思っています。例えばお子さんですが、写真に対して良いイメージを定着されることは、その子が大きくなっていくのに大事なことで、あまり小さいうちに変な写真を撮られていると、写真が嫌いになり、そして自分にプライドが持てなくなります。小さいときから良い写真を残していくことは、そのお子さんにプライドを植

え付けていると同じなので、それだけ非常に大切な仕事をしていると思っています。私自身はそれをただ単に一生懸命やっているだけなんですよ」と写真館の果たす役割の重要性を語っていました。

最後に、今後について伺うと「写真には自分が写ってしまいますので、その意味では自分の人間性が高まらないと良い写真は撮れないと思っています。まだまだ低いままですが……。テクニック云々以前に、まずは人間力を磨いていかなければならないと思っています」とし、自分の資質を向上させながら、さらにステップアップした写真創りを目指していくという気概を感じさせてくれました。

次の時代の写真館を目指し、新しい表現にチャレンジした作品多く……

2014富士フイルム営業写真コンテスト表彰式、盛大に開催

2014富士フイルム営業写真コンテスト表彰式は10月15日東京・日比谷の帝国ホテルにて、上位入賞者ならびに入賞作品制作ラボを招いて盛大に開催しました。

表彰式に先立ち、富士フイルム㈱の中嶋社長が挨拶に立ち「皆様、入賞おめでとうございます。皆様は日々、より良い写真を撮り、創るということで、感性、技術をいかに向上するかということを意欲をもって日々努力されていますが、その成果がここに表されていると思います。心から敬意を表します」とお祝いの言葉を述べた後、今回の入賞作品について「昨年の50回目に続いて、応募点数11,000点を超え、大変嬉しく思います。そのなかから選ばれた素晴らしい作品を見せていただきましたが、大変心揺さぶられる感動がありました。皆さんは、撮られる人の人生を写し込んでいくという大切な文化を担っています。お客様の要望を聞き入れながら、それをいかに表現するかということを日々研鑽されており、大変素晴らしい仕事をされていると常々思っています。私は昨年も今年も見せていただいていますが、家族写真も昔と違って新しいセンスで変わってきていると思います。それは皆さんが新しい時代のなかで、家族とは何か、人間とは何かということを常に考えて表現されているからだと思います。最近は女性も増えましたが、さまざまな意味で豊かさ、多様性が出てきているように感じています」と写真館という仕事の素晴らしさと、それに呼応して進化する現在の写真館の姿について話しました。

また、プリント作りという点にも触れ「皆さんのイメージしたとおりにプリントする、という観点から見ると、やはり富士フイルムが1934年の創業以来、継続して培ってきた『画像をどう創り込むか、豊かな色調・階調・表現力・立体感・奥行き感をどう実現するか』となると、やはり銀塩プリントがベストだと私は信じています。これからもご愛顧いただけますようお願いいたします」と話しました。

さらに“写真文化”についても言及し「弊社は創業以来、写真文化を守り続けていくということを掲げてきています。21世紀に入って、随分と写真業界も変わってきています。やはり我々は継続して写真文化を守り続けていくことを使命としています。そうした意味でさまざまな新しい製品も開発していますが、それと合わせて、写真がいかに人生を豊かにするかということをもっと多くの方々に知っていただきたいということで『30,000人 の 写真展』を開催し、大変多くの方から応募いただき、写真を撮る喜び、それを伝えあう喜び、見る喜び、飾る喜び、そうしたさまざまな楽しみ方を味わっていただきました」とし、続けて「写真は本当に素晴らしいということをもっと多くの人に伝えるためには、こうした素晴らしい写真を撮ってくださる皆様の存在が大切だと思っています。これからも新しい観点で写真を撮っていただき、益々写真文化を盛り上げてほしいと思っています」と挨拶しました。

富士フイルム(株)
代表取締役社長・COO中嶋 成博

富士フイルムイメージングシステムズ(株)
代表取締役社長 小島 正彦

富士フイルム(株)
取締役・常務執行役員 髙橋 通

この後、富士フイルムイメージングシステムズ㈱小島社長が、コンテストの経過報告として「全国3,381名の方から点数で11,113点の応募をいただきました。昨年は50回記念で例年になく多く応募いただいた反動で今年は人数で73人、点数で75点減りましたが、3,300名の方々、11,000点を超える素晴らしい作品が集まりました」と応募状況について報告。また、デジタル化については「以前はフィルムでの応募が主流でしたが、2000年を超えてからデジタル化し、今年のデジタル比率は91%。ラボさんにおけるデジタルカメラからのプリント技術も益々向上し、そして安定してきています」と現状を説明した。

応募作品の傾向については「より動きのある自由な表現、新しい撮影表現に挑戦した作品が多くみられました。まさに次の時代の写真家を目指す意欲が感じられた作品が多く、デジタルならではの新しい発想による多様な表現も見受けられ、表現の幅が確実に拡がっていることが審査員の方々の意見でした」と説明。さらに●デジタルカメラならではの高感度設定の作品、蛍光灯の作品など、新しい表現の作品がみられた●女性の写真家の応募が増えた。従来のフィルムカメラの設備に比べて、デジタルカメラの進化と設備のハンドリングの良さがあるのが、女性写真家が増えた要因ーなども傾向として挙げられました。

部門別では●婚礼写真では、トラディショナルな二人の写真が少なく、アルバムのなかのワンカットのようなスナップ風の写真が増えている。1カットで表現する写真が少なく、できればこの1枚で勝負というフォーマルな写真も応募いただければと思う●家族写真は新しい表現が増えてきた。とくに従来は縦位置が多かったのだが、ここのところ、横位置の写真が増えてきた。家族写真は大きなマーケットなので、家族の絆をどう表現し、残すか、また新たな表現にむけ、技術を磨いて家族写真の分野に力を入れてほしい●昨年にも増してマタニティーフォトが増え、表現やスタイルが多様化してきたなかで、マタニティードレスの他に日頃の服装で飾らない雰囲気のマタニティーフォトが日常の自然さがあり好感が持てたーなどが特徴として挙げられました。

最後に「現在、営業写真業界は大きな変革期を迎えています。スマホの普及で写真撮影は非常に身近なものになってきています。お客様の写真に求める内容、写真館に置ける内容、写真館の選び方も変わってきています。そのなかで生き残るには、変化するお客様の多様化する要望に応えて、プロにしか撮れない新しい斬新な、そして決して色あせない写真表現をすることだと思っています。是非、素晴らしい写真をプロの意識をもって創りあげるとともに、次回も意欲あふれる作品を期待します」と総括しました。

この後、表彰式に移り、金賞の堀由貴子さん(東京・ホリスタジオ)をはじめ、上位入賞者18名と制作ラボに対して、中嶋社長から賞状、賞金、記念品が手渡されました。受賞者を代表して金賞の堀さんは「帝国ホテルという言葉は、営業写真館にとって、富士フイルム営業写真コンテストの上位入賞を意味しています。ここで表彰されることを励みにしていますが、私もこの仕事を長年続けており、毎年、コンテストに応募し続けています。始めた頃は『早くうまくなりたい』と思って一生懸命勉強してコンテストに応募し、そしてテーマ賞などをいただくことができるようになり、それを1年の励みにしております。今後もその気持ちは変わらず、奢ることなく、丁寧にゆっくり地味に仕事を続けていきたいと思います」と挨拶しました。

金賞の喜びを語る堀さん

この後、全員での記念写真撮影、そして受賞パーティーが開催されました。冒頭に富士フイルム㈱の髙橋常務が「11,000の中から厳選された18作品は、日々の皆様の努力、研鑽の結果であり心から敬意を表します。作品を見せていただきましたが、昔とは表現が多様になってきました。ただ一つ変わらないものは、感動です。この写真の前に立つと胸を打つものがあります。写真は真を写すといいますが、ここにいる方々は“真”ではなく“心”を写すといわせていただくのが相応しいと思います」と挨拶したあと、乾杯の発声で開宴。そのパーティーでは、表彰式から続いた緊張感あふれる雰囲気から開放され、入賞の喜びで大いに盛り上がりました。途中、恒例となった、受賞者全員による1分間スピーチも行われ、受賞の喜びや作品のこと、家族・スタッフへの感謝の言葉が述べられ、感動あり、笑いありの和やかな雰囲気のなか、午後7時過ぎに全てのスケジュールが終了しました。

中嶋社長から表彰を受ける堀さん

受賞者とそのご家族の皆さん

2014富士フイルム営業写真コンテスト入賞作品発表展のご案内

東京展
2014年12月5日(金)～11日(木)
10：00～19：00(最終日は16：00まで)
富士フイルムフォトサロン／東京
〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3 フジフイルム スクエア 1F
TEL. (03)6271-3351

大阪展
2015年1月30日(金)～2月5日(木)
10：00～19：00(最終日は14：00まで)
富士フイルムフォトサロン／大阪
〒541-0053 大阪市中央区本町 2-5-7 大阪丸紅ビル 1F
TEL. (06) 6205-8000

福岡展
2015年2月13日(金)～19日(木)
10：00～18：30(最終日は14：00まで)
富士フイルムフォトサロン／福岡
〒812-0018 福岡市博多区住吉3-1-1 富士フイルムビル 1F
TEL. (092) 510-4803

名古屋展
2015年3月13日(金)～19日(木)
10：00～18：00(最終日は14：00まで)
富士フイルムフォトサロン／名古屋
〒460-0008 名古屋市中区栄1-12-17 富士フイルム名古屋ビル 1F
TEL. (052) 204-0830

仙台展
2015年4月9日(木)～21日(火)
10：00～17：30　※土・日・祝は休館
富士フイルムフォトサロン／仙台
〒983-0862 仙台市宮城野区二十人町 99 富士フイルム仙台ビル 1F
TEL. (022) 292-0577

札幌展
2015年5月22日(金)～27日(水)
10：00～19：00
富士フイルムフォトサロン／札幌
〒060-0042 札幌市中央区大通西6-1 富士フイルム札幌ビル 1F
TEL. (011) 241-7366

2014富士フイルム営業写真コンテスト入賞作品は富士フイルムホームページでもご覧になれます。
http://fujifilm.jp/promotion/shashinkan/contest/index.html

※本書は本コンテストに応募いただいた写真館様に、お届けさせていただきます。
※本書に掲載の写真の著作権は、各撮影者に帰属します。無断使用、無断転載は一切禁止します。

2014富士フイルム営業写真コンテスト作品集
No.182 スタジオメモ継承
発　行――平成26年12月1日
発行所――〒141－0031　東京都品川区西五反田3－6－32
富士フイルムイメージングシステムズ株式会社
フォトイメージング事業部 プロ営業支援グループ　03(6417)3770

FUJIFILM
Value from Innovation

家族のぬくもり。
かけがえのない
その一瞬を残したい。

2014 富士フイルム営業写真コンテスト 金賞「祝！社会人」 ホリスタジオ 堀 由貴子

なにげない仕草や表情に現れるご家族の絆と愛情。写真館の繊細な感性によって描き出される一枚を、確かな技術でお手伝いするのが、写真館向けプロラボサービスです。銀塩写真ならではのプレミアムな輝きと存在感がここにあります。これからも、富士フイルムは、かけがえのない文化として、銀塩写真の魅力を伝え続けます。

フィルムから、データから、高品位なプリント・アルバムサービス。詳細はお取引ラボにご相談ください。

質を高めるプロラボ利用。
プロフェッショナル専用ペーパーの使用と、常に安定した色管理。出力のプロによる高品位プリントは写真館の信頼性アップに大きく貢献します。

効率を高めるプロラボ利用。
高度な技術が要求されるプリント、お客様の好みによって変わるアルバムへの対応。ラボの利用により、様々な業務の効率化が可能です。

余裕を生むプロラボ利用。
アルバム制作など、撮影後の作業をラボに依頼することで、お客様とのコミュニケーション、スキルアップなどにあてる時間の余裕が生まれます。

フィルムから、データから、高品位な銀塩プリント
写真館向け
プロラボサービス

富士フイルムイメージングシステムズ株式会社　フォトイメージング事業部　プロ営業支援グループ　〒141-0031　東京都品川区西五反田3-6-32　TEL.03(6417)3770